

読む・知る・つながる大体大マガジン

# OUIHS

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

Vol.233 2024.10.11

## JOURNAL

〈旬な大体大生〉  
体操全日本インカレ  
男子つり輪優勝

田部壮一郎さん  
TANABE SOICHIRO

〈巻頭特集〉

パラリンピックで  
2選手躍動

大体大



大阪体育大学

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES



田部選手のつり輪（関西学生選手権）

# 旬な大体大生

体操全日本インカレ男子つり輪優勝

たなべ そういちろう

田部 壮一郎さん

体育学部4年・体操競技部男子  
大阪・清風高校出身



体操競技部の大黒柱、田部壮一郎選手（右）と築山翔馬選手

第78回全日本学生体操競技選手権大会（8月23〜26日・鹿児島市）の男子種目別つり輪で14・066点をマークして優勝し、初の学生チャンピオンに輝いた。

つり輪は、昨年のインカレで4位、2年前は3位に入った得意種目だ。個人総合では、チーム内で切磋琢磨する築山翔馬選手（体育3年、相生学院高校出身）の4位に次ぐ8位入賞を果たした。

寡黙かつ真摯に練習に取り組み、チームを主将として背中で引っぱり、団体6位入賞に押し上げた。「主将として今年1年間めざしたのは、弱い姿を見せないこと。キャプテンとしての威厳を保ちながら、できるだけメンバー6人に目を向けるようにしていた」という。また、つり輪の魅力を「練習をやり続けた者だけが強くなること」と語る。

今後の目標は4年後のロサンゼルス五輪にオーラウンダーとして出場することだ。目標実現のため、来年はナショナル選手入りをめざす。

## 体操インカレ男女6位

男子・築山、女子・北田がけん引

第78回全日本学生体操競技選手権大会では、大阪体育大学は、団体総合で男女とも6位入賞を果たした。

男子は、築山選手が個人総合で4位、田部選手が8位に入賞し、齋藤蒼哉選手（体育4年、高知東工業高校出身）が26位、上山吉晟選手（体育4年、大阪体育大学浪商高校出身）が36位と踏ん張った。

女子は、北田綺女選手（体育4年、香ヶ丘リベルテ高校出身）が個人総合17位とチームを引っ張り、北川莉奈選手（体育学部4年、四天王寺高校出身）が41位、大野帆加選手（体育学部4年、姫路商業高校出身）が45位に入った。



男子



女子

東京ビッグサイトに3.8万人来場

# SPORTECに出展

本学×ソフトバンク合同セミナーも

日本最大規模のスポーツ・健康産業総合展示会「SPORTEC（スポルテック）2024」が7月16～18日、東京ビッグサイトで開催され、大阪体育大学は3年連続でブースを出展した。

スポルテックは、本学の原田宗彦学長（日本スポーツリゾム推進機構代表理事）が実行委員長を務め、世界中のスポーツ関係企業や自治体、スポーツコミッション、団体など約630団体が出展。今年は約3万8000人が来場した。大学は、本学をはじめ東京大学、早稲田大学など13大学が出展。関西からは本学、同志社大学、立命館大学の3大学が参加した。

開会式典では、原田学長が「年々規模が拡大し、約3分の1は海外からの出展です。展示会は出会いの場。新しい出会いとビジネスが生まれる場になることを願っています」とあいさつした。



ブースで本学の研究、諸活動などを紹介した

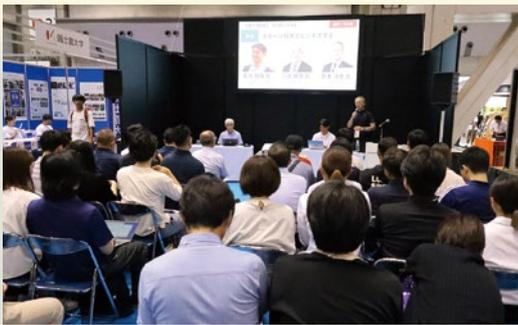
開会式典で実行委員長としてあいさつする原田宗彦学長



また、原田学長は16日、「如何にしてスポーツをする人を増やし、スポーツを通じて活力ある社会を創造していくか」をテーマに、牧原秀樹・衆議院議員・スポーツ・健康産業推進議員連盟事務局長、渡辺守成・国際オリンピック委員会（IOC）委員・国際体操連盟会長とともに基調講演を務めた。

このほか、本学教員とソフトバンク株式会社の担当者によるセミナー「スポーツ科学でビジネスする」も開催。星川智哉・ソフトバンクサービス企画本部コンテンツ推進統括部スポーツ企画2部部長、三島隆章スポーツ科学部長（スポーツ生理学）が講師を、藤本淳也教授（スポーツマーケティング）がモデレーターを務め、スポーツDX、スポーツ生理学、スポーツマーケティングの分野で、最新の研究成果や技術革新を通してどうビジネス展開していくのかを議論した。

本学のブースでは、大学院スポーツ科学研究科、社会連携事業、運動部活動改革プロジェクト、スポーツ科学サポーター事業、大学スポーツ振興事業について大型ポスターで紹介。ビジネスパーソンや研究者らが続々と詰めかけ、本学の研究活動やプロジェクトについて教員やスタッフに質問していた。



本学とソフトバンク社との合同セミナーは満席で立ち見も出るほどの盛況だった

## contents

### 01 旬な大体大生

### 02 SPORTECに出展

### 03 巻頭特集

パラリンピックで2選手躍動

### 05 NEWS

- 1 オープンキャンパス来場20%増
- 2 大体大先生リレーコラムスタート
- 3 就活支援キャリアフェスタ

### 09 大体大PEOPLE

志村 駿介：株式会社 Lean on Me 代表取締役 CEO

### 11 EVENT

- 1 海で山で野外活動実習
- 2 西安体育学院と交流協定
- 3 関西医療大学と連携協定
- 4 熊取町4大学が連携協定
- 5 教育後援会役員会を開催

### 13 コラム 窓

### 14 コラム ポーシャー

# 大体大生が躍動

日の丸を背負い、競泳とボッチャで世界のトップ選手と渡り合った。

本学からこれまでパラリンピックに出場したのは、5月に引退を発表した山本篤・本学客員教授1人。パリ大会は、本学にとっても歴史に残る大会となった。



宇津木美都 選手

驚異的な追い上げだった。女子100m平泳ぎ(SB8)決勝。宇津木選手は前半の50mは40秒42で最下位の8位。高校3年の福田果音選手(18)にも後れを取った。予選でも1分28秒15と振るわず全体8位でぎりぎりの通過。このままかと思われたが、ターン後に粘った。先行する選手が失速する中、1人また1人と追い抜く。福田選手も抜き、1分26秒42でゴールした。3つ順位を上げて5位入賞。3年前の東京大会で記録したタイムを2秒17、東京での6位から順位を一つ上げた。宇津木選手は「予選は直前のけがもあり思うように泳げなかったが、決勝は2秒タイムを上げて東京よりも順位を上げた。しっかりと全力を出し切れたと思う」と振り返る。

逆境に諦めない気持ちに力を変えてきた。競泳を始めたばかりの中学3年でア



## 宇津木 驚異の追い上げ 「全力出し切り、東京を超えた」

「パリでは自分で十分やり切ったと思えるレースができた。次の2028年ロサンゼルス大会では表彰台に上がりたい」

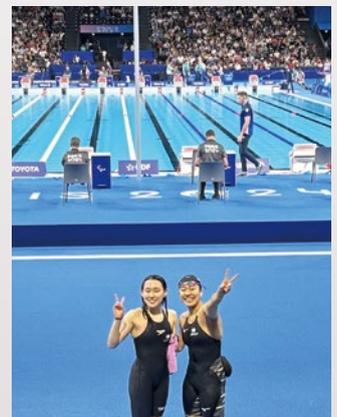
入場した。

前向きな気持ちと明るい性格で、昨年のアジアパラ大会では競泳チームの主将、パリ大会でも副主将を任された。100m平泳ぎ決勝の入場時の選手紹介では、誰よりもはちきれるような笑顔で入場した。

「パリでは自分で十分やり切ったと思えるレースができた。次の2028年ロサンゼルス大会では表彰台に上がりたい」

入場した。

前向きな気持ちと明るい性格で、昨年のアジアパラ大会では競泳チームの主将、パリ大会でも副主将を任された。100m平泳ぎ決勝の入場時の選手紹介では、誰よりもはちきれるような笑顔で入場した。



100m平泳ぎ予選後に福田果音選手(左)と

## パリ・オリパラ 教職員・院生も参加 五輪に土屋教授・生田監督、パラ副団長に大学院生・中澤さん

パリオリンピック・パラリンピックには、宇津木、内田選手のほかに、本学から教職員、大学院生が参加した。



生田秀和准教授(右から2人目)



土屋裕睦教授

中澤吉裕さん

オリンピックでは、スポーツ科学部の土屋裕睦教授(スポーツ心理学)が、選手の「心のケア」を担当するウエルフェア・オフィサー4人の1人として日本選手団に加わった。土屋教授は日本スポーツ心理学会理事長で、JOC科学サポート部門員。2004年アテネ大会から本格的にトップアスリートの心理支援を担当している。オリンピックでは、前回の東京大会でも選手がSNSなどによる激しい誹謗中傷にさらされており、夏季大会としては初めてウエルフェア・オフィサーが派遣された。

また、柔道部男子監督の生田秀和准教授(柔道)は柔道女子日本代表にコーチとして帯同した。生田准教授は2013年から全日本柔道連盟ユニテリア強化コーチを務め、東京オリンピックでは、男子日本代表のコーチとしてナショナルトレーニングセンターに常駐し、重量級の選手を中心に指導した。

柔道女子日本代表の増地克之監督が9月12日、原田宗彦学長を表敬訪問し、戦績を報告した。

# パリパラリンピック

パリ2024パラリンピック競技大会が8月28日から9月8日までの12日間、開催された。大阪体育大学からは水上競技部女子の宇津木美都選手（教育学部4年、京都文教高校出身）、アダプテッド・スポーツ部の内田峻介選手（教育学部4年、山口南総合支援学校出身）の2人が出場。



## 内田峻介 選手

悔やむ。それでもポッチャ日本代表「火ノ玉JAPAN」の主将として、チームを鼓舞した。チームは日に日に一丸となり、最後のチーム戦での銅メダルにつながった。

内田選手は、世界選手権2022年優勝の内田選手と、2018年覇者の鄭遠森選手（35）と中国との新旧王者対決だったが、1-10と大差がついた。2戦目で若いアンドレ・コスタ選手（21）とブラジルを8-2で降したものの、最終第3戦は、長年にわたり世界のトップに立ち続ける梁育榮選手（39）と香港に2-1で敗れた。「まだまだ実力不足。自分のパフォーマンスを發揮できなかった」と悔やむ。

曾根裕二監督と部で練習する内田選手



## 内田 レジェンドに屈すも「感謝の気持ちでいっぱい」

という。「日本はポッチャで2つの銅メダルを含む過去最多の5つの入賞を果たした。パリのメンバーで戦い抜けたことをとてもうれしく思う」と誇らしげに語る。中学3年生で、国を挙げた有望選手の発掘事業「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」1期生になった。高校1年で日本選手権優勝。2021年東京大会は日本代表の座を逃したが、開会式で聖火に点火する大役を務めて注目を浴びた。2022年世界選手権では日本選手初の金メダルを獲得した。昨年12月、国際大会でのクラス分け審査で「出場資格なし」と判定され、パリへの扉が閉ざされたが、部の仲間らに励まされて、日本選手権3連覇を達成。その後、出場資格が認められた。「この舞台に立てたのは、火ノ玉JAPANの選手・スタッフ、大学の先生や仲間、家族、応援してくださるすべての方のおかげで、感謝の気持ちでいっぱい」と話す。



パリ大会のポッチャ会場で応援する富山浩三教授

「この悔しさはパラリンピックでしか返せない。4年後のロサンゼルス大会に向けて、一から自分らしく泥臭く戦っていく」。新たなスタートが始まる。

## 学長らも現地で声援



社行会でチームメートらから励まされてパリ大会に出場した宇津木、内田選手

パラリンピックでは、本学大学院スポーツ科学研究科の博士前期課程に在学中の中澤吉裕さんが、日本代表選手団の副団長を務めた。中澤さんは日本パラリンピック委員会強化本部長。2021年の東京パラリンピックで車いすテニス日本代表監督を務めていた際、土屋教授がサポートしたことが縁になり、2022年4月、本学大学院に入学。最長4年間学べる長期履修制度とオンライン講義を利用し、土屋研究室に所属している。

パリ大会では、本学から原田宗彦学長らが現地に入り、声援を送った。競泳会場のパリ・ラ・デファンス・アリーナでは、100m平泳ぎの予選、決勝で宇津木選手を応援。原田学長は「宇津木さんはメダルを狙っていたので悔しいかもしれませんが、予選8位だったところを立て直して決勝で5位の結果は素晴らしい。東京大会から2秒以上タイムを縮めていて、メダルまではあと約2秒。次はメダルに手が届くと思います」とたたえた。ポッチャ会場のパリ南アリーナでは、富山浩三スポーツ科学部教授（スポーツマネジメント）も加わった。原田学長は「内田選手は前回の東京大会に出場できずに悔しい思いをし、今回出場を果たしましたが、相手は39歳、百戦錬磨の香港のレジェンド。内田選手も、年齢が上れば経験値も上がります。次に期待したい」と今後の活躍を期待していた。

## オープンキャンパス20%増

1686組来場、学生チームが運営



夏のオープンキャンパスが7〜8月の週末を中心に4回開催された。3月23日の春のオープンキャンパス、個別参加のソロオープンキャンパスも含めて、今年度の来場組数は昨年度を20%上回る1686組にのぼり（ソロオープンキャンパスは継続中）、多数の高校生、保護者らで盛況だった。

運営の中心は学生チーム「Bowcan's」（ボーキャンズ）約30人が務め、受付や誘導、説明会での司会などを担当した。

最終回となった8月10日は、この数年間で最も多い599組が午前・午後の部に來場した。

ウェルカムスピーチでは、原田宗彦学長が本学の歴史や特長、テーマワードの「本物を学び、極める」、大学が重視する「学生センター」の考え方などについて説明した。スポーツ科学部の三島隆章学部長は2年次から始まる「デジタルスポーツ論」の概要などについて説明。バスケットボール部女子の合宿先とオンラインで結び、同部でアナリストなどを務める中笠優さん（体育学部3年、香里ヌヴェール学院高校出身）が「大体大は、いろいろなスポーツや経験をした人と関わられて、自分の世界を広げることができる場所です」などと高校生に語りかけた。

教育学部の金子勝司学部長はリフレットを元に教育学部の特長を説明した。また、10日限定のスペシャルイベントと



オープンキャンパス

大体大先生  
リレーコラム

大体大先生リレーコラム「本物を学ぼう」が6月、大学ホームページでスタートしました。

リレーコラムは、主に高校生の皆さんを対象に、スポーツ科学や教育学、教職、教養を学ぶことの魅力を知ってもらうことが目的です。スポーツ科学部、教育学部の教員がコラムをお届けします。

これまでにスポーツ科学部では、藤本淳也教授の「Jリーグの持続的成長を支えるスポーツマーケティング」、堤裕之教授の「スポーツ科学部の学びとICT」、教育学部では、松本直子准教授の「キラキラ輝く毎日を過ごすこと」などが掲載されています。

今後も随時掲載していきますので、どうぞご一読ください。



▲リレーコラム

して「体力テスト対策体験」が実施された。体験授業では、スポーツ科学部・富山浩三教授の「LAドジャースが目撃達成のためにやっていること」（午前）、友金明香准教授の「スタミナとは」（午後）、教育学部・片山繁一教授の「魅力いっぱい小学校の先生」（午前午後）を多数の参加者が聴講。参加者が想定よりも増えたため、開催教室は大型の教室に変更された。キャンパスツアーでは、学生スタッフの先導で参加者が学内の施設を見学した。

また、会場では企業の協力を得て、アイスクリームやプロテイン、エナジードリンクの無料サービスも実施された。

参加した大阪府の男子高校3年生（硬式野球部）は「この大学に来たいと思って

いて、2日のオープンキャンパスも参加した。ウェイトルーム（S&Cルーム）はともきれいだだった」、広島県の女子高校3年生（ソフトテニス部）は「教育学部で保健体育と特別支援学校の教員免許を取りたい。個別相談で教育学部の先生から実践のカリキュラムのことなどを教えてもらい、他の大学よりも実技をちゃんと学べそうだと思った」などと話していた。



学生チーム「Bowcan's」

# 3年生対象キャリアフェスタ

## 8企業・団体ブースで質問



企業などの採用担当者から話を聞く3年生

就職活動支援イベント「キャリアフェスタ」が、8月7、8日の2日間、開催された。このイベントは、就職活動が本格化する時期を目前に控えた3年生が対象。「自分の知らない世界を知る」ことを目的に、企業や団体の採用担当者らを招き、採用に関することや、企業概要などの説明を受けた。学生は、体育学部スポーツ教育学科、健康・スポーツマネジメント学科、教育学部教育学科ごとに分かれ、キャリア支援部の職員から、ルールと心構えなどの説明を受けた。

その後、参加企業・団体・学校ごとに用意された教室（ブース）で、1日4ブース、2日間で8企業・団体などの話を聞いた。説明後は各ブースで企業・団体の方とフリートークの時間が設けられ、学生は熱心に質問をしていた。

### ◆参加企業・団体◆

三菱倉庫、Lean on Me、和泉学園（法務教官）、青年海外協力隊（JICA）、大阪体育大学大学院、グンゼ、ソフトバンク、関西テレビ放送、ユニ・チャーム、TOPPAN、野村證券、田辺三菱製薬、国分グループ、JTB、ミスノ、大阪府庁、アルペン、警視庁、東京消防庁、紀の川市立池田小学校（小学校教員）、堺市立鳳中学校（中学校教員）、兵庫県立和田山高等学校（高等学校教員）、大阪府立八尾支援学校（特別支援学校教員）



企業・団体のブースで担当者に質問する3年生

## 令和6年度9月卒業式

### 学部生14人が旅立つ

令和6年度9月卒業式が9月13日、本学中央棟7階大会議室で行われた。

9月の卒業生は、体育学部13人、教育学部1人の計14人。式では、14人の名前が読み上げられたあと、卒業生一人一人に原田宗彦学長から卒業証書・学位記が授与された。

原田学長が「大阪体育大学での学びを社会のため、人のために最大限に活用するとともに、大阪体育大学の卒業生としての誇りを胸に前に進んでいってください」と式辞を述べた。

また、卒業生を代表して、体育学部の岩本真波さんに教育後援会と校友会、同窓会組織の摂泉会からの記念品が贈られた。

## 日本感情心理学会開催

日本感情心理学会の第32回大会が6月1～2日、大阪体育大学で初めて開催され、スポーツ科学部の手塚洋介教授が実行委員長を務めた。本学はスポーツ心理学に特化したコースを全国で初めて設置しており、大会では感情心理学とスポーツ心理学の接点の共有を目指し、日本スポーツ心理学会理事長の本学・土屋裕陸教授の特別講演などが実施された。また、プレカンファレンスでは、本学の大学院生らが2010年に設立し、学生アスリートを対象に心理サポートなどを実施している「学生スポーツメンタルトレーニング（SMT）チーム」の活動が、菅生貴之教授や大学院生から紹介された。



大阪体育大学で開催された日本感情心理学会第32回大会



卒業式

# 女子野球W杯 白石がMVP

首位打者も 侍ジャパン7連覇

女子野球の第9回WBSCワールドカップファイナルステージが7～8月にカナダで開催され、日本は決勝で米国の11-6で降し、7連覇を達成。本学の白石美優選手（体育学部4年、福知山成美高校出身）がMVPと首位打者に輝いた。



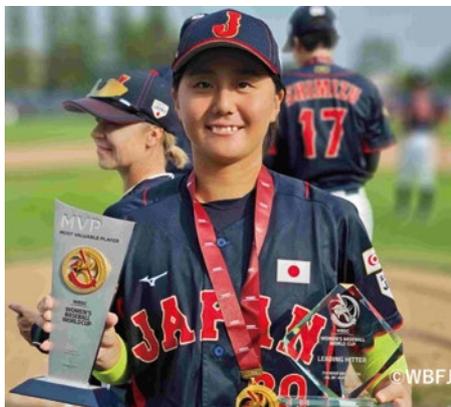
女子野球W杯MVPの白石美優選手(左)と横井光治コーチ

侍ジャパン女子代表には、大阪体育大学から白石選手が外野手、横井光治監督（教育学部講師）がコーチで参加した。白石選手は初戦の台湾戦は途中出場だったが、2戦目以降、先発出場。6試合通算で16打数9安打8打点、打率5割6分3厘と侍打線をけん引した。

白石選手は高校卒業後、プロチームの京都フローラ、愛知ディオーネで計3年プレーし、2021年、大阪体育大学に入学。その年の9月の全日本大学選手権（インカレ）初優勝に貢献した。昨年の女子野球アジアカップから侍ジャパン女子代表に選出されている。

また、横井監督は2011年、硬式野球部女子の監督に就任。2021年、全日本インカレ初優勝を果たした。全国女子硬式野球連盟理事、全国大学女子硬式野球連盟副理事長を務め、侍ジャパン女子代表強化委員。

白石選手は「初戦でスタメンから外れた時はすごく悔しかった。次戦の練習からしっかりとアピールできるように準備してきたことが結果につながった。7連覇に貢献できたという実感があり、すごく達成感を感じる」。横井監督は「現地で打倒日本の雰囲気強く、相手の気迫で恐怖を感じる場面もあった中での優勝は価値がある」と大会を振り返った。



## ダンス部に神戸市長賞 全日本高校・大学フェスティバル(神戸)



第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）が8月6～9日、神戸市の神戸文化ホールで開かれ、本学ダンス部が大学の部で神戸市長賞を受賞した。

受賞作は、「偶然か、運命か（人生双六（スゴロク）の遊び方）」

神戸市長賞は、新境地を切り開く独創的な発想の探求に対して贈られる賞で、トップの文部科学大臣賞に続く3賞の一つとなる。

大会の様子はNHK Eテレで全国放送され、本学のダンスも紹介された。

# 「体育大学だからこそできる」支援 能登半島被災地 第2回派遣

## 子ども運動教室、高齢者健康活動



▲コーン倒して大学生チーム、子どもチームが対決

ボールを落としたら負け。学生と高齢者が対戦▼



宿泊先の国立能登青少年交流の家で。学生が書いた寄せ書き



被災家屋から家財道具を運び出す学生

派遣活動の主体となった社会貢献センターのセンター長・中山健スポーツ科学部教授（スポーツ社会学）と支援にあたった体育学部3年・宮崎英史さん（サッカー部）に支援の感想などを聞いた。

### 〈中山健教授〉

「未就学児や小学校低学年の5、6人が子ども運動教室に参加し、学生が用意してきた



風船バレーボールなど様々なゲームを学生と楽しみました。高齢者とは世間話などをするサロン活動、ハンドマツサージや、座ってできる卓球台を使ったゲームなども楽しめました。被災地では小学校のグラウンドに仮設住宅が建つなど運動ができる場所が限られています。私たちが学校と連携することで様々な活動ができるのではと思います。また、仮設住宅に入居した後はコミュニティ作りが重要になります。その方策は手探りだと聞きます。今回実施したサロン活動はコミュニティの機運醸成につながり、この点でも引き続き貢献できたらと考えています」

### 〈宮崎英史さん〉



「教員志望なので、SNSではなく生で被災地を知り、災害ボランティアの経験を生徒に教えたいと思い参加しました。交流イベントに参加した子どもたちから『今まで一番面白かった』と感想を話してもらい、とてもうれしく感じました。また、ネットニュースで、仮設住宅で高齢者が孤独死したことを知り、自分たちが仮設住宅をうかがうことで交流の場を作り、住民同士のつながりにつなげたいと思いました」



志村 駿介 (しむら・しゅんすけ)  
1990年3月2日生まれ、34歳。大阪体育大学体育学部スポーツ教育学科卒。2014年に株式会社 Lean on Me を設立。「障がい者にやさしい街づくり」を理念に掲げる。内閣府の令和5年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で内閣府特命担当大臣表彰優良賞を受賞。2025年日本国際博覧会協会とアドバイザー契約を締結。

オンライン研修サービスで障がい者への理解広めたい  
**真のノーマライゼーションの  
実現めざして**



ダウン症の弟と

株式会社 Lean on Me(リーンオンミー)  
代表取締役 CEO

**志村 駿介**さん

—— **起業のきっかけは。** ——  
大学3年の時に自分の将来について考える機会があって、母子家庭で弟がダウン症という家庭環境だったので、経済的にゆとりのある大人になりたいなどと考え始めて、そこから起業をめざしま

—— **大学時代の思い出は。** ——  
将来はプロテニスプレーヤーになろうと思っていたので、テニス部で全国大会に出場したりと、大学でもテニスに没頭できたことが思い出です。友人に恵まれたことも大きかったですね。自分と向き合う時間が十分にあって、充実していました。

—— **大阪体育大学に進学した理由は。** ——  
アメリカにテニス留学をするくらい、学生時代はテニスに打ち込んでいました。大阪体育大学に進学したのは、高校時代のテニス部の顧問が体大出身で、その影響が大きかったですね。よく練習試合もしていたので、身近な存在でした。保健体育の教員免許も取得できればという考えもありました。



オンライン研修サービス「スペシャルラーニング」

—— **事業内容は。** ——  
障がい福祉サービス事業所の職員らが、1本3分ほどの短尺動画で障がい者支援の基礎を学べる「スペシャルラーニング」というサブスクリプションモデルのオンライン研修サービスを提供しています。業界を牽引する専門家の力添えも得ながら、1500本を超える動画を制作していて、新人職員からベテラン職員まで必要に応じて視聴できる。経営について学ぶために新卒で回転寿司チェーンに入社して、店舗経営を学んでから起業したという流れです。

障がい福祉サービス事業所の職員らを対象にしたオンライン研修サービスを提供する株式会社リーンオンミー(本社・大阪府高槻市)。障がい者への理解を深めてもらい、真のノーマライゼーションの実現をめざそうと、大阪体育大学OBの志村駿介さんが起業した。ダウン症の弟がいることから、障がい者と接するのが自然な環境で過ごす一方で、一般社会の「障がい」との向き合い方に課題を感じてきた。オンライン研修サービスは、1500本を超える短尺動画の中から習熟度や経験に合わせて選択し、必要な知識を体系的に学ぶことができるもので、全国5200の事業所の累計8万人が利用する。

きます。ユーザーからは、手探りで仕事をしていたので知識を得られて良かったとか、時間が取れずに研修ができていなかったの、非常勤のスタッフにも研修を届けられるようになって助かったとか、著名人の話を視聴できて嬉しいとか、そんな声をいただいています。

### オンライン研修サービスに着目し 理由は。

起業の当初は障がい福祉サービス事業所でアルバイトもして生活費を稼いでいて、その際にオンライン研修サービスを思いつきました。職人気質の文化も相まって職員が定着しづらかったり、一人で頑張つて燃え尽きるまで働いて、持続性のない働き方になっていたりして、そこに介入して標準化しよう。動画で対人コミュニケーションを学べるわけがないと、当初はオンライン研修に否定的な反応もあったのですが、コロナ禍で非対面型の研修のニーズが高まって、そこから風向きが変わりましたね。サービスを真似する会社も出てきて、市場として動き始めたように思います。

### 支援者向けの研修の重要性は。

虐待が発生する一番の要因は知識不足です。例えば、これをしなかつたらおやつ抜きとか、部屋の外へ出さないとか、そういう罰を与えたりと、子育てのしつけの延長で接する支援者もいます。今は障がいの特性が研究されている

ので、支援者自身を守るためにも知識を身につける必要があると思います。

### 2021年の障害者差別解消法の改正に伴い、2024年4月から、民間事業者にも合理的配慮の提供が義務化された。

合理的配慮は、障がいのある人の困りごとを見つけて、それを手助けしましょうというものです。知的障がいや発達障がい、精神障がいのある人の困りごとを見つけようと思うと、基礎知識がないと見つけられず、結果的に配慮につながらないので、研修サービスのニーズが高まっています。

### 障がい者雇用に取り組む民間企業のニーズも拡大している。

民間企業に義務づけられる障がい者の法定雇用率が段階的に引き上げられています。知的障がいや発達障がい、精神障がいのある人を雇用する際のマニュアルの整備や研修などのニーズが顕在化されてきて、企業からの問い合わせも増えてきています。

### 内閣府の令和5年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で内閣府特命担当大臣表彰優良賞を受賞した。

事業に対して、多くの審査員から共感をいただきました。表彰式の際に、首相官邸で岸田総理(当時)にも動画を選んで視聴してもらい、「いい取り組みですね」と声をかけてもらえて、感慨



内閣府の令和5年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で内閣府特命担当大臣表彰優良賞を受賞し、岸田総理(当時)と

深かったです。障がい者雇用のコンテンツを視聴していたかと思っています。

### 大阪関西万博の開催に向け、2025年日本国際博覧会協会とアドバイザー契約を締結した。

知的障がい、発達障がい、精神障がいのある人が来場した際のガイドラインを作成したり、運営スタッフの研修を実施したりというところで関わっています。研修では、障がいのある人が同伴者と来場した際は、まず本人に話しかけてくださいと伝えています。接する機会ができると、もっと適切に対応するにはどうしたらいいのかと意識する人が増えると思います。どんな人にも楽しんでもらえる万博になってほしいですね。

### 今年4月、リーンオンミーは設立10周年を迎えた。今後の展望は。

自分が思い描いた未来に向かって着実に進んでいるという実感がありません。これまでは障がい者福祉の業界向けにサービスを提供することが中心でしたが、これからは色々な企業と協業しながら、色々な形でサービスを広げるところに注力していきたいと思っています。アジア向けのサービスの展開にも関心を寄せています。

### どんな社会になってほしいか。

障がいがある人のことを理解して、どんな手助けが必要なのかを知った上で、普通に接するのが真のノーマライゼーションだと思います。障がいがあることで選択肢が狭まることも多いので、障がいのある人もない人も同じサービスを受けられることが当たり前の社会になってほしいですね。

### 学生へアドバイス。

自己理解を深めることが他者理解につながると思うので、自分らしく生きられる環境を築いてほしいと思います。関心のある色々な人に連絡して直接話を聞きに行くのもいいですね。自分の考えをぶつけて、フィードバックをもらう。学生のうちに足で情報を稼ぐ経験しておくこと、社会人になってからの成長スピードが速くなると思います。もちろん起業もおススメです。社会的な意義を明確にして起業すると、そういった目的意識のある人たちが集まってくるのでいいと思います。

# 海で山で野外実習

## 臨海・キャンプ・海洋スポーツ

野外活動実習が7月以降、各地で実施された。  
野外活動では、非日常的な自然環境の中で集団を作り、課題解決を目指す。そこで得られる学びは日常での課題解決につながることから、本学では長年、重視してきた。



臨海実習



キャンプ実習



海洋スポーツキャンプ実習

### 〈臨海実習〉

7月2～5日、和歌山県白浜町の白良浜などで体育学部3、4年生約40人が参加し実施された。実習では、ライフセービングについてプロのライフセーバーが指導し、本学ライフセービング部がサポート。参加者全員が昼の実技と夜の座学に臨み、ウォーターセーフティの資格を取得した。スキューバダイビングでは、スキューバサービス施設「ミズオーシャン」のインストラクターの指導を受け、ダイビングを体験した。最終日の遠泳は、教員やスタッフに乗ったライフセービング部員が見守る中、2列の隊列を組んで互いに声をかけて励まし合いながら、全員が45分間を泳ぎ切った。

### 〈キャンプ実習A〉

8月20～23日、兵庫県美方郡香美町の尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」で体育学部2～4年生約110人が参加し実施された。学生は4ユニット16班に分かれてテントに宿泊。様々なプログラムに取り組んだ。ツリークライミングでは専用のロープなどで木に登り、森との一体感を感じた。ASE (Action Socialization Experience) では4m超の壁をどう越えるかなど、1人では解決できない課題を、メンバーが協力して解決した。シャワークライミングでは班で助け合いながら沢の上流を目指し、最終日は標高12221mの鉢伏山に登った。

### 〈海洋スポーツキャンプ実習〉

9月9～16日に前後期で3泊4日ずつ、徳島県・YMCA阿南国際海洋センターで体育学部3、4年生約160人が参加して実施された。学生はウィンドサーフィン、カヌー、カッター、1人乗りヨットのダックリン、2枚帆のシカール、立ってパドルを漕ぐサップなどで沖に出たほか、無人島の野々島でのシヌノーケリング、釣りや、ウォークラリーに取り組んだ。プログラムは教員が指導し、野外活動部、体育実技研究部など学生スタッフがサポートした。夜も、海岸で拾い広い集めたごみを教材にしたSDGs学習や翌日のヨットに向けたロープの結び方などの講習などのスケジュールをこなした。最終日のキャンプファイアーでは、各班ごとのスタンツ(寸劇)で盛り上がり、班長・副班長が班員1人1人のキヤンドルに分火した。



海洋スポーツキャンプ実習

# 西安体育学院と交流協定を更新



調印式に参加した西安体育学院と大阪体育大学の関係者

大阪体育大学と学術交流協定を結ぶ西安体育学院（中国）の幹部が6月17（21日）に来日し、本学で学術交流協定を更新する調印式に臨んだ。

西安体育学院は1954年創立の体育大学で、1986年に本学と協定を締結した。

調印式では、野田賢治・浪商学園理事長、原田宗彦学長があいさつ。西安体育学院トップの劉子実党書記は、今年10月に行われる同学院の創立70年記念式典への出席を要請し、原田学長が快諾した。



交流協定に調印した劉子実党書記（左）と原田宗彦学長

続いて劉党書記、原田学長が協定書にサインし、記念品を交換した。本学側の通訳は、西安出身で富山浩三研究室（スポーツマナジメント）に所属する大学院博士後期課程3年の劉佩さんが務めた。

また、一行は柔道場、剣道場での授業や総合実験室、トレーニング施設のS&C（ストレングス&コンディショニング）ルームなどを見学した。このほか、西安体育学院・大阪体育大学研究発表会も開かれ、劉軍スポーツ健康学部長、高月宏スポーツトレーニング学部書記、本学スポーツ科学部の菅生貴之教授（メンタルトレーニン）、近藤衣美講師（スポーツ栄養学）が発表し、学生らが熱心に聴き入った。学科やカリキュラム、人事などに関する情報交換会も開かれた。

## 熊取町内4大学が連携協定

大阪府熊取町内にある大阪体育大学、大阪観光大学、関西医療大学、京都大学複合原子力科学研究所の学長らが7月30日、熊取町役場で「連携協力に関する協定」を締結した。

4大学はこれまで個別に熊取町と協定を結んでいた。今回の協定は大学間の連携・協力関係をより強化することが目的。今後、教育・研究に関する相互支援、教職員研修（FD/S/D）の共同実施、公開講座の共同実施、施設・設備の共同利用、教職員・学生の相互交流などについて具体的な協議を進める方針だ。



## 関西医療大学と包括協定 教育・研究等で相互支援

大阪体育大学と関西医療大学の連携・協力に関する包括協定調印式が7月4日、本学で行われた。両大学はともに大阪府熊取町にある。包括協定は、互いの教育・研究の進展と社会の発展に寄与することが目的で、「教育・研究に関する相互支援」「教職員の研修」「学生の支援」「施設等の相互利用」「その他各種事業の相互連携」について、連携・協力を進めていく。

調印式では、浪商学園の野田賢治理事長と関西医療学園の武田大輔理事長、本学の原田宗彦学長と関西医療大学の吉田宗平学長が、それぞれ協定書を交換し調印した。

# 教育後援会役員会を開催 父母らの代表が予算・事業計画を審議

令和6年度の大阪体育大学教育後援会役員会が6月15日、大会議室で開かれ、学生の父母等代表21人と原田宗彦学長、浪商学園・野田賢治理事長をはじめ、大学の教職員が出席した。

役員会では、冒頭に大谷哲也会長が「教育後援会では、今年度に大学院生やクラブの海外遠征・合宿の支援も計画しており、引き続き学生への援助を続けていき

ます」とあいさつした。

原田学長、野田理事長のあいさつの後、議事に移り、令和5年度の事業、決算が報告、承認された。

その後、令和6年度役員員の推薦に移り、菅谷暢之副会長が新会長に推薦された。

続いて令和6年度の事業計画案、予算案が審議され、課外活動や学生生活支援、傷害治療、就職振興活動、卒業行事への

援助などを盛り込んだ事業計画、予算案が承認された。

- ◇新役員候補者のうち会長、副会長、会計監査は次の皆様◇
- ▽会長 菅谷暢之
- ▽副会長 宇野修、西岡潤哉
- ▽会計監査 花見明子、伊藤絵里香  
(敬称略)

大阪体育大学教育後援会 令和5年度収入支出決算書  
収入の部 (単位：円)

費目	決算額
会費収入	33,000,000
前年度繰越金	19,373,326
利息	317
学生徴収分	287,188
計	52,660,831

支出の部 (単位：円)

費目	決算額
(1)学生援助費	0
①課外活動	0
②大学祭	500,000
③学生生活支援	6,842,960
④傷害治療援助	6,589,701
⑤就職振興	3,095,725
⑥卒業行事	2,959,782
⑦災害見舞金	0
(2)教育援助費	966,313
①クラス活動	966,313
②学会発表	80,000
③文化厚生	2,666,107
(3)課外活動特別援助	3,500,000
(4)事業費	3,294,981
①会報費	3,294,981
②慶弔記念費	410,000
(5)運営費	145,842
①会議費	145,842
②事務費	1,333,873
予備費	0
特別会計繰出金	0
次年度繰越金	20,275,547
計	52,660,831

大阪体育大学教育後援会 令和6年度収入支出予算書  
収入の部 (単位：円)

費目	予算額
会費収入	33,840,000
前年度繰越金	20,275,547
利息	400
学生徴収分	200,000
特別会計より繰入	0
その他雑収入	0
計	54,315,947

支出の部 (単位：円)

費目	予算額
学生援助費	24,100,000
課外活動	500,000
大学祭	500,000
学生生活支援	8,000,000
傷害治療援助	7,000,000
就職振興	5,000,000
卒業行事	3,000,000
災害見舞金	100,000
教育援助費	7,500,000
クラス活動	1,500,000
大学院研究活動	500,000
文化厚生	5,500,000
課外活動特別援助	5,000,000
事業費	4,600,000
会報費	3,500,000
慶弔記念費	1,100,000
運営費	1,660,000
会議費	160,000
事務費	1,500,000
予備費	11,455,947
特別経常費	0
特別会計繰出金	0
次年度繰越金	0
計	54,315,947

特別会計(特別対策基金)収入支出決算書  
(単位：円)

項目	収入	支出
前年度繰越金	60,394,542	0
今年度繰入金	0	0
今年度繰出金	0	0
定期利息	1,026	0
次年度繰越金	0	60,395,568
計	60,395,568	60,395,568

特別会計(特別対策基金)収入支出予算書  
(単位：円)

項目	収入	支出
前年度からの繰入金	60,394,542	0
定期利息	900	0
今年度繰入金	0	0
今年度繰出金	0	0
次年度繰越金	0	60,395,442
計	60,395,442	60,395,442



教育後援会役員会



◆大阪体育大学の魅力とは何でしょう。広報室では、「教員と学生の距離の近さ」をその一つとしてHPや「大学案内」でPRしています。先日、徳島県で実施された海洋スポーツキャンプ実習に帯同して、その「近さ」を改めて感じました。

◆実習でのアクティビティの指導は、インストラクターに任せる例が多いと聞きます。しかし、本学では教員が腰まで海に入り、ヨットやウインドサーフィンの乗り方を、学生1人1人に身をもって教え、励ましていました。ウインドサーフィンを操る先生たちの何と上手なこと。生活指導教員として久しぶりに参加した土屋裕睦教授もすいすい滑っていました。大体大では教員も文武両道でした。

◆私は関東の私大の卒業ですが、部活動の経験はなく、こんなに先生と近い距離で接したことはありません。親しい新聞記者に本学での実習の様子を話すと、驚かれました。

◆大阪にバスで帰る途中、淡路島のサーブスエリアで、観光バスの運転手が学生に近づき、「大体大？私もOB。徳島の実習も参加したよ」と懐かしそうに話しかけてきました。卒業後も学生時代を懐かしんでもらえることは、大学にとって誇りです。卒業生と大学・学生の距離の近さも本学の魅力。その距離をもっともって縮めていくことが大切です。

【大坪康巳】

# バルト海はかなしみが似合う



コラム **ポーシャー**

名誉教授 和田隆夫

かなしみは智慧にかがやき  
情熱のとしへの虹

(佐藤春夫『ぼるとがるぶみ』の「新版ぼるとがるぶみ自序(詩)」より抜粋)

「かなしみ」は三つある。心が痛む「悲しみ」と他者のかなしみを自分のそのように感じる「哀しみ」、そしていとしいと思う「愛しみ」である。

バルト海は「かなしみ」が似合う。

9月上旬、ベルリンの友人に誘われて、ポーランドのコウオブジエクに遊んだ。パルセンタ川が流れ込むバルト海の南海岸に位置する人口47000人の保養地である。かつてはコルベルクと呼ばれるプロイセン王国の都市であった。つまりドイツ領だったが、第二次世界大戦後、ソ連がポーランドを侵食した分、押し出されるような形でポーランド領になった。

午前中にベルリンをたち、予定より遅れたが、3時頃にはラディソンホテルに到着した。運転をしてくれた友人は少し休むことになったが、それにおかまもなく水着に着替えて海岸に出た。

30度は超えていないが、泳ぐには申し分ない暑さだ。

妻がスマホのナビを操作して、森のなかを10分ほど歩くとバルト海が目の前に広がった。

ぼくは、コロナパンデミックの1年前の3月、ヘルシンキからフェリーに乗船して、バルト海をエストニアのタリンまで渡ったことがある。その日の海は、小さな氷塊が密集して暗く冷たく人をまったく拒絶していた。そのとき思った。バルト海には人魚が住んでいるそうで、氷塊は、人に恋してはいけない人魚を守るために何人も拒絶しているのだと。しかし拒絶されると逆に「惚れっぽいのが深情け」になるのか、「この暗い海にずんでみたい」という奇妙な想いにとりつかれた。

コウオブジエクの9月の海岸は、このときのヘルシンキと違い、世界中の砂時計の砂をぶちまけたような、微細な砂で敷きつめられた砂浜である。もちろん真夏の激しい陽差しはないが、それでもまだ陽光はするどく突き刺さってくる。



バルト海とかもめ

海に近づくにつれ、子どものように急ぎ足になった。

夏のシーズンは終わっているため、バルト海特有の屋根の付いた籐のビーチチェアは使われず、海岸のはしっこに放置されていた。それでもビニールシートにすわりこむ人たちはけっこういた。空は晴れ渡り、濃いブルーの海だった。沖合には派手な遊覧船が航行している。かもめが桟橋にとまり、また鳴きながら飛んでいる。泳いでいる人はいないが、波打ち際を歩く人はそれなりにいる。そのなかには海岸に打ち上げられる琥珀を探している人もいようだ。バルト海の琥珀は人に恋して成就しなかった人魚の涙だと言われている。

そんな風景を見ていて思い出した映画がある。フォルカー・シュレンドルフ監督の「ブリキの太鼓」(1979年)である。原作はドイツのギュンター・グラスである。前半の山場に、大人になることを忌避して3歳で成長を止めた主人公のオスカルと両親、母親の恋人の4人がバルト海の海岸で遊ぶシーンがある。互いの感情は妖しく、ときおり諦念の悲しみを交えて交錯する。舞台となるバルト海は、三人の心情を反映したように寒々としていて、これから始まる母親の狂気を予感させた。そういえばスウェーデンのイングマル・ベルイマン監督の「第七の封印」もバルト海のフォーレ島を舞台にしていた。死神の登場する見事に暗い映画だった。

「さあバルト海で泳ぐぞ」  
ビニールシートの人たちは静かにぼくを注視している。

足が海水に触れた瞬間、かっこよく泳ごうとする頭脳と海に入るのをとめようとする肉体が引っ張り合いをして、バランスをくずし波打ち際で倒れこんだ。海水は氷水のように冷たかった。

「気持ちいいよ」

ぼくの言葉で警戒した妻は、ゆっくりと波打ち際に向かい、注意深く足を浸けていた。それでもなにか叫んでいた。

翌日午前中は海岸線に沿うシマンスキ大通りを、アイスクリームを食べたり、土産物屋を冷やかしたりしながら、灯台に向かった。灯台は改修工事中で足場が組まれ、その美しい姿を隠していた。近くには小さな船着き場のような港がある。いく艘もの派手な遊覧船に混じって、魚雷艇があった。これも遊覧船で、ポーランド海軍の払い下げのようだ。ただそのときはなぜ魚雷艇の遊覧船があるのかわからなかった。

帰国後、なにものかに導かれるように10年ほど前にドイツで買ったGuido KnoppのDie große Fluchtを書架から取り出していた。翻訳本があるかどうか知らないが、直訳すれば『大脱出』、副題は「避難民の運命」とある。

同書は、ハンニバル作戦を軸として、第2次世界大戦末期の東部戦線からのドイツ人避難民の海路・陸路の逃避行を描いたノンフィクションである。ハンニバル作戦は、歴史上最大のドイツ海軍による海上避難作戦である。1945年の1月から5月にかけてソ連軍が攻め込んできた東プロイセン(当時)、ポーランド回廊からバルト海経由で民間人をドイツ本国、デンマークに避難させる作戦である。15週間で民間人80万から90万人、兵士35万人を避難させた。このため漁船を含めたあらゆる商船や大型船(なかにはクルーズ船も含まれていた)を総動員した。クルーズ船などの大型船は、どうしても沖合の深い海を航行するので潜水艦の攻撃対象になりやすく、ゴッテンハーフェンを出港した元クルーズ船のヴィルヘルム・グストロフ号は、女性・子どもを中心に1万人を超すほどの市民を乗船させていたが、1月30日にソ連の潜水艦の魚雷攻撃で沈められ、9000人以上が死亡するという大惨事があった。

コウオブジエク(当時コルベルク)は、かつてナポレオンのフランス軍に包囲されて6ヶ月間耐えたことがあり、ナチスのプロパガンダはこの町を犠牲と忍耐の象徴としていたため、現地司令官の降伏の要請に対して、ヒトラーは拒絶した。3月7日時点で85000人の市民と3300人の兵士が閉じ込められており、避難ルートは要塞化のため海路のみであった。そこでポーランド軍の射程圏外に駆逐艦などを停泊させて、魚雷艇や上陸用ポートなどを往復させて避難民を救出した。

最後の司令官フリッツ・フリーデ大佐は兵士に向かって言った。

「あなたたちが守るのはこのコルベルクではなく、この町の住民なのだ。これがあなたたちの任務だ。」

今も魚雷艇を遊覧船に転用するのはこうした歴史の背景があったからだ。この歴史を知れば、ドイツ人にとって単なる観光ではなく感慨深い遊覧になることは理解できる。コルベルクの戦闘は3月18日にロシア軍・ポーランド軍の占領で終結した。その時から陸路による68000人の困難な避難が始まった。



バルト海海岸



**本物**を学び、極める

## 大阪体育大学

---

【大学院】

- スポーツ科学研究科  
博士（前期・後期）課程

---

【スポーツ科学部】（1年）

- スポーツ科学科

【体育学部】（2～4年）

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

---

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室  
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター  
情報処理センター  
スポーツ科学センター  
国際交流センター、学習支援室

---

<https://www.ouhs.jp/>

OUHS ジャーナル 2024年(令和6年)10月11日(金)

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・学友会  
大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 電話(072)453-7021 FAX(072)453-8818